

日本共産党のおだぎりたかしです。

議案第1号「R8年度流山市一般会計予算」に対する修正案、つまり「おおたかの森まちなみづくり事業」に位置付けられた、「おおたかの森駅前センター地区道路再整備事業」、市は「こもれびストリート」を名付けていますが、市民から『いざきロード』と揶揄される道路再整備事業の2工区に関するすべての予算を削除する修正案に、日本共産党を代表し、賛成の立場から討論をします。

賛成理由の第1は、平穏な生活と市民の安全・安心を壊す可能性があるからです。

2月28日土曜日午前中に開かれた「2工区市民説明会」では、大型SC歩行者入口近くと、東武線側歩道を結ぶ横断歩道が廃止されることに伴い、不安や懸念が多く示されました。このことは市も認めています。いっぽう、市民から最も危険性が指摘された横断歩道部分の歩行者数調査が実施されていないことも発覚しました。

横断歩道廃止の原因をつくったのは、「回遊性を高めるためには、通行車両を減らす必要があり、だから道路の一方通行化」という『いざきロード』の画一的な目的を機械的に地域に押しつけたことで、地域のメイン道路とサブ道路の変更が余儀なくされ、道路を横断する歩行者の視認性の確保が難しくなったからです。

その他にも、「人と車の交錯の改善」を求める声はなかった」と市も認めており、事業目的はもはや薄れているのです。また「回遊性」についても、一方通行化する道路の自由な横断という市の「回遊性」ではなく、歩道と横断歩道をこれまで通り安全に利用する市民目線の「回遊性」を求める意見も説明会では聞かれています。この不安や懸念、要望を放置したまま、早期工事着手は絶対にはありません。

修正案に賛成する理由の第二は、市民に役立つ市役所を変貌させるからです。

「いざきロード」は、「市民要望はない」と議会でも開き直り、すでに3億8944万2千円も投下されました。さらにR8年度当初予算には2億7194万2千円も計上し、計画上の総事業費は6億7865万4千円にもものぼります。

一方、議会では会派を超えて要望されてきた様々な事業は数百万円単位でもなかなか実現しません。また庁内各課でも数十万円単位の予算要望ですらなかなか実現されないのです。

またそもそもセンター地区道路は、1999、H11年度に事業認可を受けた区画整理事業で、井崎市長就任後に具体的工事に着手した道路の一つです。特に「いざきロード」2工区道路は、R2年1月の市道認定からわずか6年、苦情もないのに、道路を掘り起こし、再整備するんです。こんな浪費が許されていていいはずがありませんし、多くの地権者から頂いた清算金や減歩、国費は将来性もなく、ムダ使いだったことを意味するのです。

さらに2月28日の説明会では、「融通が利かない警察に対し、市民の声を聴いて動く市役所」というスタンスに私は危うさを強く感じました。そもそも計画当初から、警察が懸念を繰り返し示していたにもかかわらず、公費をつぎ込み、無理やり事業化を推し進めてきたのは市長の責任は市民に隠されています。通学路合同点検を経て、児童生徒の登下校時の安全を向上するために設置を求めてきた横断歩道は、過去5年間で市内70カ所、一か所も実現できないことは土木部のみにシワ寄せし、『いざきロード』となれば市長は語気を強め、横断歩道設置を求め、何度でも協議するわけです。しかも設置に努力する姿勢を示しつつも、事業完成R8年度末という工期延期は明示しません。

その他2工区工事後には、西口ロータリーへ向かう車量も千葉銀前で平日も休日も大幅増となる予測です。おおたかの森駅西口ロータリーへの進入路は1本のみとなり、混雑時でも、災害時でも、バスや一般車両から逃げ道を奪ってもお構いなしです。

つまり、自治基本条例も、市民参加条例も、二元代表制も言葉だけ、警察や土木部の日々の努力も、計画的な区画整理事業も、信頼感に泥を塗り、児童生徒の安全向上も二の次、市長のワンマンが優先されるんです。

以上、住民の福祉の増進どころか、悪化と破壊につながる可能性があり、今すぐ工事着手する必要性も、正当性も、緊急性ないことからR8年度については全額、削除すべきと重ねて指摘し、修正案への賛成討論を終わります。